

令和元年度(2019年度)

病害虫発生予察情報 第17号

8月月報

北海道病害虫防除所 令和元年(2019年)9月19日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・多雨・寡照』 月のはじめは晴れて猛暑日となるも、その後はぐずついた天気－

この期間の天気は、上旬は高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多く、1～2日には猛暑日となった所もあったが、8～10日は低気圧や前線などの影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。中旬と下旬は低気圧や気圧の谷、湿った気流などの影響で雨の降った日が多く、大雨となった日も度々あった。気温は上旬は平年より高かったが、下旬は低く、月平均気温は平年並だった。降水量はいずれの旬も平年より多く、月降水量はかなり多かった。日照時間は上旬は平年より多かったが、中旬と下旬は少なく、月間日照時間も少なかった。

上旬：1日は高気圧の張り出しの中となって太平洋側を中心に晴れたが、気圧の谷の影響により日本海側北部やオホーツク海側では雨の降った所があった。2～6日は高気圧に覆われて概ね晴れた。7日は高気圧の張り出しの中となって日本海側南部や太平洋側では晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響でオホーツク海側を中心に雨の降った所もあった。8～9日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降り、9日は大雨となった所もあった。日降水量は8日に新十津川町空知吉野で62.0mm、9日に幌加内町幌加内で126.0mmなど。10日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。日降水量は厚沢部町鶉で74.5mmなど。

中旬：11～12日は湿った気流や前線、気圧の谷の影響で雨の降った所が多かったが、11日は晴れた所もあった。日降水量は12日に豊富で99.5mmなど。13日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、前線や湿った気流の影響でオホーツク海側を中心に雨の降った所が多かった。14日は高気圧に覆われてオホーツク海側を中心に晴れたが、湿った気流の影響で雨の降った所もあった。15日は湿った気流の影響により太平洋側で雨の降った所が多かったが、日本海側やオホーツク海側では晴れた所もあった。16日は台風第10号の影響で太平洋側を中心に雨が降り、大雨となった所があったが、オホーツク海側など晴れた所もあった。日降水量は登別市カルルスで135.0mmなど。17日は台風第10号から変わった低気圧の影響で全道的に雨が降ったが、次第に気圧の尾根の中となって日本海側南部や太平洋側では晴れた所が多かった。日降水量は平取町旭で59.0mmなど。18～19日は高気圧の張り出しの中となって日本海側や太平洋側で晴れた所が多かったが、冷たく湿った気流の影響で雨の降った所もあった。20日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。日降水量は白老町森野で52.5mmなど。

下旬：21～22日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かったが、晴れた所もあった。日降水量は22日に登別市札内町で68.0mmなど。23日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は標津町糸檜別で135.0mmなど。24日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は弟子屈町川湯で59.5mmなど。25日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かったが、日本海側南部や太平洋側西部を中心に晴れた所もあった。26～27日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、大気の状態が不安定となって雨の降った所もあった。28～29日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降り、28日には大雨となった所もあった。日降水量は28日に白老町森野で172.0mmなど。30日は気圧の谷の影響で太平洋側を中心に雨の降った所が多かったが、日本海側では概ね晴れた。31日は低気圧を含む気圧の谷の中で大気の状態が不安定となって全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は岩見沢市5条で103.0mmなど。

気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	0.0	並	152	か多	93	少
日本海側10地点平均	0.0	並	137	多	92	少
オホーツク海側4地点平均	-0.8	並	181	か多	74	少
太平洋側8地点平均	+0.4	並	155	多	103	並

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生量 やや多

予察田の「きらら397」における葉いもちの発生量は、北斗市では平年より多く、岩見沢市では平年よりやや多く、比布町では平年よりやや少なかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査では、発生が認められなかった。

予察田における水稻の葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	23.0	15.6	23.0	17.8	24.5	22.0	8
	ななつぼし	25.5	30.6	27.0	34.2	28.5	40.4	8
比布町	きらら397	24.0	34.5	25.0	36.7	37.0	40.7	10
	ななつぼし	26.0	33.7	37.0	42	37.0	36.3	3
北斗市	きらら397	30.0	16.4	35.0	17.2	32.0	17.8	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田における水稻の葉いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)		
			8月3半旬					8月3半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	6	0	0	渡島	本所	3	0	0	
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0			北部	2	0	0
	中空知	4	0	0		上川	本所	8	0	0
	北空知	7	0	0			富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0	0	大雪		4	0	0	
	北部	7	0	0	士別	2	0	0		
後志	本所	4	0	0	名寄	2	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	5	0	0	
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	0	

いもち病（穂いもち・節いもち） 発生期 やや早 発生量 やや少

予察田の「きらら397」における枝梗いもちの初発期は、岩見沢市、北斗市では平年より早く、比布町では平年並だった。首いもちの初発期は、北斗市では平年より早く、岩見沢市では平年よりやや早く、比布町では平年よりやや遅かった。節いもちの初発期は、北斗市では平年より早く、岩見沢市では平年並、比布町では平年よりやや遅かった。

「きらら397」における穂いもちの発生量は、岩見沢市では枝梗いもち、首いもちともに平年より少なかった。比布町では枝梗いもちが平年よりやや多かったが、首いもちが平年より少なかった。北斗市では枝梗いもち、首いもちともに平年よりやや多かった。「きらら397」における節いもちの発生量は、岩見沢市では平年より少なく、比布町では平年よりやや少なく、北斗市では平年並であった。

一般田における8月6半旬の巡回調査では、穂いもちの発生は認められなかった。

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの初発期

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		枝梗いもち		首いもち		本年	平年	
		本年	平年	本年	平年			
岩見沢市	きらら397	8月7日	8月15日	8月13日	8月18日	8月22日	8月21日	8
	ななつぼし	8月5日	8月14日	8月13日	8月17日	8月17日	8月18日	8
比布町	きらら397	8月6日	8月5日	8月13日	8月10日	8月19日	8月13日	10
	ななつぼし	8月6日	8月8日	8月14日	8月11日	8月20日	8月12日	3
北斗市	きらら397	8月2日	8月11日	8月4日	8月17日	8月9日	8月26日	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病莖率(%)		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	5.0	24.3	0.2	10.6	0.1	7.9	8
	ななつぼし	13.9	27.0	1.1	30.3	0.3	18.4	8
比布町	きらら397	31.5	24.6	2.0	26.6	33.5	51.2	10
	ななつぼし	42.9	24.6	2.5	9.8	45.4	34.4	3
北斗市	きらら397	35.3	17.2	23.3	17.9	6.4	5.6	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田における水稻の穂いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病穂率(%)		普及センター		地点数	発病穂率(%)		
			8月6半旬					8月6半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	6	0	0	渡島	本所	3	0	0	
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0			北部	2	0	0
	中空知	4	0	0		上川	本所	8	0	0
	北空知	7	0	0			富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0	2.0	大雪		4	0	0	
	北部	7	0	0	士別	2	0	0		
後志	本所	4	0	0	名寄	2	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	5	0	0	
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	0	

2. 紋枯病 発生期 早 発生量 並

予察田における初発期は、岩見沢市で平年より早く、北斗市で平年よりやや早かった。発生量は岩見沢市では平年よりやや少なく、北斗市では平年よりやや多かった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	初発期		発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	7月31日	8月15日	46.0	52.3	4.3	11.2	18.0	14.8	8
北斗市	きらら397	7月29日	8月3日	52.0	33.7	52.4	17.4	17.0	15.7	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. 葉しょう褐変病 発生量 少

予察田における発生量は岩見沢市、比布町いずれの地点においても平年より少なかった。

予察田における水稻の葉しょう褐変病発生状況(8月2半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	10.0	33.0	0.4	2.9	2.5	10.4	8
比布町	きらら397	24.0	32.0	1.6	4.7	6.0	13.7	3

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

4. ウンカ類 発生量 並

ヒメトビウンカの予察灯による誘殺数は、長沼町でやや多く、北斗市では平年並だった。比布町では8月4半旬まで平年より多く、5半旬以降は減少した。予察田におけるすくい取り成虫数は、比布町および北斗市で平年並、長沼町では平年より少なかった。

セジロウンカの予察灯による誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。予察田におけるすくい取り成虫数は、北斗市で平年並、長沼町では平年より少なかった。比布町では捕獲されなかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査(全78地点)によると、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りにおいて、空知地方および上川地方の各1地点で100頭以上の捕獲が認められた。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り成虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	267	148.6	1256	321.0	30	6.3	15	6.4	230	108.9	7.5	7.5
2半旬	437	179.9	834	384.6	33	5.8	22.5	13.0	-	66.9	15	13.8
3半旬	823	163.3	209	143.8	29	7.1	12.5	42.6	110	73.1	12.5	10.0
4半旬	78	175.5	1365	196.0	21	30.4	0	32.4	215	122.0	40	15.3
5半旬	33	320.2	2	1044	8	14.0	45	133.0	-	644.5	40	26.8
6半旬	209	180.0	182	2239	208	312.5	26.3	165.4	480	1023	25	54.8
平年数	10		10		10		7		10		10	

注) -は未調査。

セジロウカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	2	2.8	7	3.1	19	34.4	0	6.6	0	0.3	5	6.6
2半旬	0	29.2	0	26.9	12	70.1	0	1.3	-	2.8	12.5	18.8
3半旬	0	13.3	0	34.6	1	109.7	0	1.8	0	11.5	7.5	37.5
4半旬	0	40.2	7	23.2	6	75.3	0	2.1	0	5.0	2.5	24.3
5半旬	1	20.8	0	61.1	26	260.7	0	3.4	-	10.5	47.5	21.0
6半旬	0	5.4	1	34.5	66	16.9	1.3	6.8	0	19.3	30	27.5
平年数	10		10		10		7		10		10	

注) -は未調査。

巡回調査によるヒメトビウカ成幼虫の20回振り水田すくい取り虫数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	6	6.5	0	渡島	本所	3	1.7	2.3
	南東部	2	4	1.5		檜山	本所	2	0
	南西部	3	0	2.3	北部		2	0	4
	中空知	4	2.3	1.3	上川	本所	8	66.4	4.1
	北空知	7	53.9	7.6		富良野	2	36	0
石狩	本所	5	1	3.2		大雪	4	28	40.3
	北部	7	0.1	0	士別	2	0	0	
後志	本所	4	3.5	3.3	名寄	2	0	0	
胆振	東胆振	4	3.3	4.3	留萌	本所	5	4.4	0.4
日高	西部	3	0.3	0		南留萌	3	0	0

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 多

<7月19日付け注意報第5号>

<8月2日付け注意報第7号>

予察灯による誘殺数は、長沼町および比布町で平年より多かった。北斗市では8月4半旬まで平年並で、5半旬以降減少した。予察田におけるすくい取り成虫数は、比布町および北斗市で平年より多く、長沼町では平年より少なかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査(全78地点)によると、水田すくい取りによる成幼虫の捕獲数が、発生モニタリングによる追加防除の基準である捕獲数2頭(「きらら397」)以上となったのは、空知地方および上川地方の計5地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	2633	493.7	45	24.7	102	84.8	2.5	0.9	5	0.8	5.0	3.3
2半旬	761	455.7	68	26.5	39	47.6	2.5	2.6	-	0	7.5	2.3
3半旬	690	340.9	12	28.2	26	46.4	2.5	5.3	5	0	12.5	1.0
4半旬	125	244.2	84	8.3	42	34.4	0	3.9	5	0	7.5	0.8
5半旬	148	192.2	2	16.9	0	72.5	0	6.4	-	0	10.0	1.8
6半旬	200	81.4	4	17.2	33	40.1	2.5	5.0	20	1.4	5.0	0.8
平年数	10		10		10		6		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成・幼虫の20回振り水田すくい取り虫数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬		
		本年	前年			本年	前年	
空知	本所	6	0.9	渡島	本所	3	0.3	
	南東部	2	0		檜山	本所	2	0
	南西部	3	0.3	北部	2	0.5	0	
	中空知	4	0	上川	本所	8	0.5	
北空知	7	0.1	富良野		2	1	0	
石狩	本所	5	0.2		大雪	4	0	0
	北部	7	0.1		士別	2	0.5	0
後志	本所	4	0.3	名寄	2	1	0	
胆振	東胆振	4	0.3	留萌	本所	5	0	
日高	西部	3	0.3		南留萌	3	0	0

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による誘殺数は、長沼町および比布町で平年より少なかった。北斗市では誘殺が認められなかった。第2～3回幼虫による予察田の被害葉率は、長沼町で平年並、北斗市で平年よりやや低く、比布町では平年より低かった。

フタオビコヤガ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における被害状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	62	187.3	116	482.1	0	58.7	5.1	4.5	0.1	6.7	0	0.1
2半旬	78	276.4	31	223.6	0	25.2	5.0	4.6	-	7.8	0.1	0.1
3半旬	18	199.6	2	159.4	0	8.3	4.7	4.6	0.5	9.2	0.1	0.2
4半旬	2	38.5	0	51.7	0	2.7	5.2	4.8	2.1	11.9	0	0.1
5半旬	0	16.2	0	13.3	0	3.3	3.6	5.9	6.4	14.4	0	0.3
6半旬	3	7.5	0	17.4	0	3.2	2.4	5.6	6.6	15.9	0	0.3
平年数	10		10		10		7		10		10	

B. とうもろこし

1. アワノメイガ 発生量 並

北斗市におけるフェロモントラップによる誘殺数は平年並だった。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の誘殺数

月・半旬	北斗市	
	本年	平年
8月1半旬	1	0.3
2半旬	1	1.3
3半旬	2	1.4
4半旬	4	1.7
5半旬	11	11.7
6半旬	9	8.1

注) 平年数は10年

C. 豆類

1. べと病（大豆） 発生量 並

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年並であった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	12.5	21.5	26.5	24.4	30.0	28.1	10

2. わい化病（大豆） 発生量 並

予察ほにおけるわい化病の発病株率は、長沼町で平年より低く、訓子府町で平年よりやや高かった。

予察ほにおける大豆のわい化病の発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		平年数
		本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	22.0	45.2	10
訓子府町	トヨコマチ	58.0	45.5	10

3. 菌核病（菜豆） 発生量 やや多

芽室町の予察ほにおける菌核病の発生量は、平年よりやや多かった。

予察ほにおける菜豆の菌核病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	10.5	11.2	19.5	15.2	29.0	12.8	10

4. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生量 やや多

長沼町の予察ほ（小豆）における灰色かび病の発生量は、平年並であった。芽室町の予察ほ（菜豆）における灰色かび病の発生量は、平年よりやや多かった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査では、小豆の灰色かび病の発病は胆振、上川、留萌、オホーツク、十勝地方において認められた。

予察ほにおける小豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	2.0	1.1	2.5	3.8	5.0	5.2	10

予察ほにおける菜豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	10.0	13.1	19.8	17.3	26.5	20.7	10

一般ほにおける小豆の灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			8月3半旬					8月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	1.0	0
後志	本所	2	0	0	網走	本所	2	0	4.0
胆振	本所	3	0	0		網走	2	2.5	0
	東胆振	3	1.7	1.0		美幌	3	3.3	0
檜山	本所	2	0	0	十勝	本所	4	2.3	2.7
	北部	1	0	0		東部	6	0.3	4.3
上川	富良野	1	0	0		東北部	4	1.8	0
	大雪	3	0	0.7		北部	3	3.3	3.3
	士別	2	6.0	0		西部	3	2.7	0.7
					南部	3	0.3	0	

5. マメシクイガ 発生期 並 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫の初誘殺は、訓子府町で平年より早く、長沼町で平年よりやや早く、北斗市で平年並、芽室町で平年よりやや遅く、比布町では平年より遅かった。誘殺数は、長沼町でやや多く、他の地点では平年より少なかった。

予察ほの大豆における産卵初発期は、長沼町で平年並、芽室町では平年よりやや遅かった。産卵数は、長沼町で平年並、芽室町では平年より少なかった。

マメシクイガのフェロモントラップによる誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	39	20.3	9	49.6	1	1.5	16	14.5	3	2.1
2半旬	70	29.8	9	44.3	8	9.4	9	24.6	0	2.6
3半旬	11	34.7	3	16.6	5	11.1	12	21.8	2	7.3
4半旬	26	23.0	6	5.6	6	16.1	3	17.3	3	8.0
5半旬	5	17.4	2	2.6	9	15.5	3	9.4	1	4.3
6半旬	4	3.7	0	0.8	5	10.2	0	3.1	2	3.5
初誘殺日	7月22日	7月25日	7月24日	7月18日	8月5日	8月6日	7月29日	7月26日	7月31日	8月6日
平年数	10		8		9		10		8	

予察ほの大豆におけるマメシクイガの産卵状況

月・半旬	長沼町		芽室町	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	4.4	—	2.0
2半旬	3	16.7	0	7.4
3半旬	21	23.1	2	18.6
4半旬	12	29.7	2	26.4
5半旬	41	27.3	3	14.9
6半旬	33	9.3	3	3.2
初発期	8.Ⅱ	8.Ⅱ	8.Ⅲ	8.Ⅱ
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの卵数

注2) 品種は「トヨムスメ」

6. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほの大豆の食害程度は、長沼町で平年よりやや低く、訓子府町では平年並だった。小豆の食害程度は、長沼町で平年並、訓子府町では平年よりやや高かった。

予察ほにおける大豆および小豆の食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	33	40.9	33	29.1	17	19.3	24	14.2
2半旬	36	45.6	36	30.2	14	19.8	27	16.8
3半旬	30	48.4	35	31.7	17	21.7	29	18.0
4半旬	32	49.6	36	31.7	22	22.3	27	20.0
5半旬	34	51.1	37	31.6	24	23.6	27	21.4
6半旬	40	51.4	38	33.7	25	23.7	28	22.1
平年数	10		10		10		10	

D. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 やや少

予察ほの「とうや」における疫病の発生量は、訓子府町では平年よりやや多く、芽室町では平年より少なかった。長沼町では発生が認められなかった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月1半旬		8月3半旬		8月5半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	とうや	0	53.1	-	62.9	-	62.9	10
	スノーマーチ	0	47.6	0	62.4	-	70.9	10
北斗市	とうや	-	62.0	-	62.6	-	-	10
芽室町	とうや	25.5	90.0	-	90.0	-	90.0	10
	男爵薯	100	90.0	100	90.0	100	90.0	10
	スノーマーチ	31.0	89.8	53.5	90.0	100	90.0	10
	紅丸	38.0	89.6	74.0	90.0	100	90.0	10
訓子府町	とうや	100.0	79.2	-	79.2	-	73.3	10
	スノーマーチ	75.5	57.2	96.5	73.4	-	73.4	10

注) -: 他病害による影響、茎葉の黄化、枯凋により調査不能

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、芽室町では平年並だった。長沼町および訓子府町では発生が認められなかった。ワタアブラムシおよびモモアカアブラムシは、いずれの地点も発生が認められなかった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	2	1.4	0	0.5	0	2.6	0	0.1	0	32.9
2半旬	0	0	0	0.3	0	0.2	0	0.4	0	0	0	33.3
3半旬	0	0	0	0	0	0.1	0	1.5	0	0	0	54.3
4半旬	0	0	0	0	0	0.2	0	0.9	0	0.2	0	42.9
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 品種は「スノーマーチ」

注2) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。

E. てんさい

1. 褐斑病 発生量 やや少

予察ほにおける発生量は、芽室町では平年よりやや多く、長沼町では平年並、訓子府町では平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の結果では、全道的に発生は認められたが、発病株率が50%を超えたほ場は1ほ場に留まった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン	10.4	10.0	23.2	20.6	35.2	37.0	3
	あまいぶき	14.8	19.3	22.8	36.0	40.4	57.6	8
芽室町	ライエン	23.2	16.3	42.8	22.0	50.4	30.4	3
	あまいぶき	24.0	26.2	49.6	34.4	51.2	51.8	6
	スタウト	21.6	18.5	38.4	24.9	43.2	24.9	8
訓子府町	リッカ	4.4	18.6	15.6	32.1	22.8	50.2	9

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			8月3半旬		8月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	2.0	0	2.0
石狩	本所	4	0	1.0	1.5	3.8
後志	本所	3	0	0	0	0
胆振	本所	4	0.3	5.0	2.0	6.3
	東胆振	3	0.3	6.0	1.3	2.0
上川	富良野	3	0	0	0	0
	大雪	3	0	0	0	1.0
	士別	2	0	0	4.0	0
	名寄	1	0	0	0	0
網走	本所	10	0.5	3.2	1.1	4.3
	清里	5	0	0.3	0	0
	網走	2	0	2.5	4.0	0.5
	美幌	5	0.2	1.8	0	2.4
	遠軽	9	1.6	7.8	12.0	7.3
十勝	本所	5	0	0.2	1.4	0.6
	東部	6	0.2	0.7	1.3	0.5
	東北部	4	0.5	9.0	4.3	8.0
	北部	3	0	0	1.0	1.3
	西部	3	2.0	0.7	4.3	0
	南部	3	0	0	0	7.3

2. ヨトウガ（第2回） 発生期 やや早 発生量 並

<6月12日付け注意報第4号>

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町、比布町、北斗市、芽室町および滝川市で平年より早く、訓子府町では平年並だった。誘殺数は、滝川市で平年より多く、長沼町、比布町、芽室町で平年並、訓子府町では平年より少なかった。北斗市では誘殺が認められなかった。

予察ほにおける産卵初発期は、長沼町で平年より早く、訓子府町で平年並、芽室町では平年よりやや遅かった。食害程度は、長沼町で平年よりやや高く、芽室町および訓子府町で平年並だった。

一般ほにおける8月6半旬の巡回調査によると、全道的に被害は認められたものの、被害株率が50%以上となったほ場はなかった。

ヨトウガ成虫の予察灯による誘殺数と第2回初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	3	0.4	3	0.4	0	0.3	0	0.1	0	0.2	0	0
2半旬	4	2.3	0	0.6	0	0.5	1	0.2	1	1.2	2	1.2
3半旬	0	1.7	3	1.7	0	0.1	1	0.7	0	1.6	4	1.4
4半旬	1	1.6	0	1.1	0	0.2	3	1.4	0	1.1	0	1.3
5半旬	1	1.1	1	0.7	0	0.2	0	1.2	0	1.4	1	0.2
6半旬	0	1.2	0	0.5	0	0.1	0	0.4	0	1.2	5	0.2
初誘殺日	7月30日	8月6日	7月24日	8月5日	7月26日	8月8日	8月8日	8月14日	8月10日	8月12日	7月25日	8月8日
平年数	10		10		10		10		10		5	

予察ほにおけるヨトウガの産卵および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	2	0.6	0	0.4	0	0	86	61.7	39	34.3	22	31.0
2半旬	4	2.0	0	0.9	0	0.4	73	59.9	38	34.8	24	32.6
3半旬	5	3.2	0	1.8	1	0.8	75	59.6	37	33.9	25	31.9
4半旬	2	3.2	1	2.5	0	0.6	75	54.6	40	34.3	28	32.8
5半旬	3	3.2	1	2.5	0	0.4	75	50.8	37	34.8	29	34.8
6半旬	0	1.7	0	1.3	0	0.7	60	54.4	39	35.3	34	36.6
初発期	7.VI	8.II	8.IV	8.III	8.III	8.III						
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター	地点数	8月6半旬		普及センター	地点数	8月6半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	南東部	1	0	網走	本所	10	3.0		
		4	12.0			5	0.9		
	後志	本所	3		2.7	2	5.0		
			胆振		本所	4	16.0	5	2.0
東胆振	3	2.3		7.3		遠軽	9	1.1	14.1
			上川		富良野				
大雪	3	9.3		11.3		東部	6	4.0	4.3
					士別				
名寄	1	4.0		23.0		北部	3	0	5.0
			3		1.3				
3	0	0							

F. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 多

長沼町の予察ほにおけるだいこんの軟腐病の発生量は初夏播き作型において、平年より多かった。夏播き作型では発生が認められていない。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
			8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	耐病総太り	初夏播き	1.5	3.0	16.0	7.3	19.0	7.9	10
	耐病総太り	夏播き	-	-	0	0	0	0.5	10

注) - : 調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なかった。北斗市では8月上旬は平年並で、中旬以降減少した。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、モンシロチョウが優占種である地点はなかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウの発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	1.6	30	43.0
2半旬	1	13.3	63	53.7
3半旬	0	19.6	24	81.8
4半旬	3	20.8	3	33.8
5半旬	0	18.3	0	20.7
6半旬	1	16.0	2	8.8
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

3. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、比布町、芽室町、訓子府町で平年並、北斗市で平年よりやや少なく、長沼町および滝川市では平年より少なかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なかった。北斗市では8月上旬は平年より多く、中旬以降には減少した。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、コナガが優占種である地点が多かった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	38	71.0	16	8.3	61	54.0	4	1.2	3	2.1	1	3.2
2半旬	24.3	72.5	0	5.3	26	28.2	3	2.4	1	1.8	0	2.2
3半旬	23.7	60.0	1	8.0	29	21.2	2	1.7	1	1.7	0	4.8
4半旬	17	52.4	2	2.0	5	26.2	2	1.3	1	1.9	0	2.0
5半旬	12	30.7	0	0.8	2	14.3	0	1.0	0	1.8	0	2.8
6半旬	5	30.1	0	1.3	4	6.4	0	1.3	0	1.4	0	2.8
平年数	10		4		10		10		10		6	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草地。

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	1.5	125	42.0
2半旬	0	6.4	181	35.9
3半旬	0	18.1	35	40.2
4半旬	9	20.4	14	8.2
5半旬	5	17.8	9	5.8
6半旬	2	9.3	1	8.8
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

4. ヨトウガ (第2回) 発生量 並

<6月12日付け注意報第4号>

予察灯による第2回成虫の誘殺数は、滝川市で平年より多く、長沼町、比布町、芽室町で平年並、訓子府町では平年より少なかった。北斗市では誘殺が認められなかった(てんさいの項参照)。

予察ほのキャベツにおける産卵は、長沼町および北斗市において認められなかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査において、ヨトウガが優占する地点はなかった。

G. りんご

1. 黒星病 発生量 やや多

<4月22日付け注意報第2号>

予察園における発生量は、長沼町(無防除)の「昂林」で平年より多く、「つがる」でやや少なかった。余市町B(慣行防除)でも発生が認められた。

巡回調査の報告によると、一般園においても発生が認められた。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	80.1	46.7	44.5	24.1	10
	つがる	28.5	38.5	15.5	18.0	10
余市町B	つがる	0.1	5.4	-	-	10
余市町C	王林	0	2.3	-	-	-

注1) 長沼町は8月6半旬、余市町は8月第5週のデータ

注2) - : 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	3	0.9	15.7
胆振	本所	1	0	3.0
渡島	本所	4	2.0	48.4
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 やや多

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における発生量は、平年よりやや多かった。余市町の予察園（慣行防除）では平年よりやや多かった。

一般園における巡回調査の報告によると、後志、渡島および留萌地方の感受性品種（デリシヤス系等）で発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	6.79	4.36	0.19	0.09	9
	王林(徒長枝)	16.00	4.26	0.38	0.08	9
余市町C	王林(徒長枝)	1.80	0.67	-	-	3

注1)長沼町は8月6半旬、余市町は8月5週目のデータ

注2) - :調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	3	3.1	2.8
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	3.0	1.3
留萌	南留萌	1	41.0	34.5

3. ハマキムシ類 発生期 早 発生量 やや少

予察園におけるリンゴコカクモンハマキ（第2回）のフェロモントラップでの初発期は、長沼町で8月5日(平年：8月14日)と平年より早かった。誘殺数は、いずれの地点においても平年より少なかった。

幼虫による被害新梢率は、長沼町で4.0%(平年:3.1%)と平年並であった。余市町A(平年:0.2%)および同町B(平年:0.1%)のいずれの地点も0%で、被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、岩見沢市で平年より少なく、札幌市、七飯町および旭川市では平年並であった。石狩市、伊達市および壮瞥町では誘殺が認められなかった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	0.3	0	0.2	0	1.2
2半旬	0	0.9	0	1.3	0	2.5
3半旬	0	2.8	0	1.4	0	1.9
4半旬	0	1.6	0.1	0.7	0.2	3.0
5半旬	1	1.3	0.6	0.7	1.1	2.5
6半旬	0.7	0.5	0.3	1.1	0.7	2.4
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0.2	0.2	1.3	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.3	0	0.5
2半旬	0	0.5	0.7	0.4	0	0.1	0	0.4	0	0.2	0	0.9	1	2.3
3半旬	0	0.3	0	0.7	0	0.4	0	1.0	0	0.5	1	0.8	1	1.3
4半旬	0	0.5	0	1.5	0	0.1	0	1.1	0	0.2	2.5	0.6	0	1.1
5半旬	0	0.2	4.5	2.0	0	0.8	0	1.6	0	0.1	0.5	1.1	2	0.5
6半旬	0	0.5	4.4	2.7	0	1.1	0	2.4	0	0.9	0.5	1.9	0	0.3
平年数	10		10		8		10		10		10		8	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

4. モモシクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、いずれの地点も平年並だった。長沼町の予察園における産卵数は平年並だった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、伊達市で平年よりやや少なく、岩見沢市および七飯町で平年並、旭川市で平年よりやや多く、札幌市および壮瞥町では平年より多かった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	157	129.7	74.2	71.5	49.2	55.7	90	101.4	98	94.0
2半旬	20.0	56.3	41.7	51.8	50.4	42.0	81	59.3	94	97.8
3半旬	23.5	32.6	25.1	38.8	53.1	42.1	28	39.6	98	96.9
4半旬	26.5	20.5	13.4	35.3	53	35.3	42	59.3	100	98.9
5半旬	33	21.3	17.2	21.1	38.3	30.2	74	69.3	100	99.0
6半旬	75.6	17.1	27.1	18.6	56	39.1	69	62.8	100	100.0
平年数	10		10		10		10		10	

注) 産卵数は100果調査。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	21.7	14.2	44.0	8.7	24.2	25.0	10.8	5.1	113.8	77.0	63	48.6
2半旬	4.9	11.4	36.7	5.3	18.8	18.0	10	5.7	102.0	82.9	7	34.9
3半旬	1.1	6.3	36.0	4.1	17.6	20.8	13.7	6.6	72.8	76.7	20	29.9
4半旬	2.4	3.1	43.0	4.8	15.5	24.2	19	6.4	40.6	44.6	60	16.4
5半旬	3.6	1.9	43.0	6.8	14.4	31.2	18.1	7.9	26.8	32.0	56	23.3
6半旬	5.5	1.5	45.6	7.4	10.3	34.5	27.8	11.0	29.3	31.0	29	22.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

5. ハダニ類 発生量 並

予察園におけるリンゴハダニの発生量は、余市町Bでは平年並だった。長沼町および余市町Aでは、発生が認められなかった。ナミハダニの発生量は、余市町Aで平年より多く、余市町Bでは平年より少なかった。長沼町では発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.4	-	2.5	-	0.5	0	0.3	-	5.0	-	0.2
2半旬	0	1.1	0	1.0	4	2.4	0	4.3	39	7.0	0	5.7
3半旬	0	1.9	0	0.7	2	0.7	0	1.3	8	0.8	0	8.3
4半旬	0	1.3	0	0.7	0	4.0	0	0.4	2	5.3	0	56.6
5半旬	0	2.4	-	0.6	-	4.9	0	2.6	-	3.6	-	4.4
6半旬	0	2.5	0	0.2	2	1.0	0	1.6	1	1.8	1	7.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 30葉あたりの寄生虫数。

注3) -は未調査。

6. キンモンホソガ 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、いずれの地点においても平年より少なかった。予察園における被害率は、長沼町で平年より低く、余市町AおよびBでは平年よりやや低かった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、増毛町では平年より多く、その他の地点ではいずれも平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数および被害率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	11.9	242.5	201.7	44.2	175.4	2.8	7.3	-	0.4	-	0.2
2半旬	0	18.8	127.4	149.2	110.5	102.7	5.2	7.3	0	0.8	0	0.1
3半旬	0.8	16.4	63.1	182.7	79.3	151.6	3.9	8.9	0	0.7	0	0.3
4半旬	2.3	27.6	9.9	286.4	7.6	92.0	4.0	13.0	0.3	1.1	0	0.1
5半旬	9	27.3	9.4	143.8	7.8	89.5	7.0	15.7	-	0.8	-	0.1
6半旬	16	24.7	50.1	171.8	123.5	60.6	5.2	18.1	0.3	1.0	0.2	0.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0.8	74.1	0	0.9	0	18.7	6.7	49.9	27.5	236.2	1.3	207.2	0	0.4	186	12.6
2半旬	2.5	89.9	1.3	0.8	2	31.1	2.5	62.3	0.6	263.6	0.5	388.9	1	2.5	268	43.2
3半旬	1.5	116.2	1.7	1.4	0	40.1	1.8	61.3	2.7	278.5	0.3	250.3	1	1.8	243.3	99.0
4半旬	0.4	126.3	0	2.1	0	34.8	0.7	44.4	5.2	332.8	0.6	161.9	0	0.9	416	120.0
5半旬	0.8	64.5	0	2.6	0	61.5	0	17.6	2.5	268.7	0.1	250.5	0	0.4	530	180.6
6半旬	0.7	78.0	2.9	2.8	0	62.9	0	19.9	3.3	228.0	0.5	233.8	0	2.1	311.7	278.0
平年数	10		10		5		10		10		8		8		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

翌年の病害虫の発生を抑制するため、収穫残さ等を適正に処理しましょう！

・ **水稲のいもち病**

水稲いもち病の第一次伝染源は、保菌種子と前年の被害わらや籾殻で、これらは本田における葉いもちの早期多発の原因となります。そのため、本田の被害わらは圃場外に搬出し、堆肥化するなど完全に処理しましょう。育苗ハウス内およびその周辺の籾殻は放置せず、衛生管理を徹底しましょう。

・ **施設内のモモアカアブラムシ等越冬害虫**

平成 27 年に実施した冬期間のビニールハウス内での発生調査において、収穫残さや床土、使用予定の育苗用土に生じた雑草などに、モモアカアブラムシの発生が認められました。施設内で越冬しているモモアカアブラムシは、春以降ほ場に飛来し、てん菜の黄化病（旧：西部萎黄病）の病原ウイルスの媒介に関与していることが示唆されています。このほかにもアシグロハモグリバエ、ミカンキイロアザミウマなど、露地では越冬することの出来ない害虫は、施設内で越冬しています。そのため、冬期間には、施設内の葉菜類などの収穫残さ、雑草などを適正に処分しましょう。

・ **アスパラガスのツマグロアオカスミカメ**

ツマグロアオカスミカメは、アスパラガスの出芽期に、収穫する若茎にすじ状の傷や曲りを生じさせたり、茎の先端を壊死させたりすることで商品価値を損ねます。本種はアスパラガスの茎葉部に産み付けられた卵で越冬します。越冬した卵からふ化した幼虫が春季に被害を及ぼすことから、本種の被害への対策として、秋季の茎葉黄変後に茎葉をほ場外に搬出することが効果的です。

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111(内線)27-838）

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)をご覧ください。